

## 第10回新城市若者議会

令和3年12月10日（金）午後7時30分から午後8時15分  
新城市議会 議場

開 会 午後7時30分

## 1. 若者議会議長あいさつ

○石内輝議長 若者議会議長の石内です。若者議会条例第6条第1項に基づき、本日の進行を務めさせていただきます。

ただいまから第10回新城市若者議会市長報告を行います。5月の第1回若者議会から私たちは、若者が活躍できるまちを実現するべく、様々な活動を行ってきました。8月の第6回若者議会では、政策中間報告を行いました。その後も担当課職員の方々からアドバイスや意見をいただきながら話し合い、令和4年度若者予算事業計画を策定いたしました。11月22日に答申をいたしましたので、本日は、若者議会市長報告ということで、4つの事業を説明させていただきたいと思います。

## 2. 事業報告

○石内輝議長 初めに、PR委員会による「若者議会に見て触れて～キミも主役になっちゃお～事業」です。発表者は、木戸 ゆめ（きど ゆめ）委員、瀬野 和奏（せの わかな）委員です。よろしくをお願いします。

○木戸ゆめ委員 PR委員会の発表を行います。よろしくをお願いします。

私たちが提案する事業は、「若者議会に見て触れて～キミも主役になっちゃお～事業」です。私たちは「市や若者議会を知ってもらい16歳から29歳の幅広い世代に若者議会やまちづくりに参加してほしい」ということを目的として、政策を検討してきました。若者の中では、まだ若者議会に対し固いイメージをもっていたり、若者議会がどんな会議をしているのかわからないので参加しづらいなどの意見がありました。その意見を基に若者議会のイメージの払拭、市や若者議会についてより知り、体験する機会を作りたいと考えました。これは、参加を迷っている人たちのきっかけや若者議会に挑戦する後押しにつな

がると考えます。これにより、今以上に多くの若者に若者議会について知ってもらうことで、参加人数の増加、及びより多くの若者の意見が反映された政策を実行していくことができると思います。また、若者が活躍できるまちづくりへの足掛かりとして、積極的な参加、若者の意識醸成を図るために3つの政策案を考えました。

○瀬野和奏委員 1つ目の政策は、講座です。市内外のまちづくりに興味がある若者を対象とし、若者議会に参加するきっかけや、知る機会を作りたいと言う想いから生まれた政策案です。内容としては、2回に分けて開催します。

1回目は、気軽に参加してもらいやすい様に、午前中はすごろくを用いた新城市、若者議会の知識をインプットできるような交流を、午後には若者議会の模擬体験を行います。模擬体験では、新城市等について話し合い、発表し合う予定です。2回目は、若者議会により関心を持っている方を対象に「若者議会お悩み相談会」と称した相談会を行います。若者議会への参加を考えている方が経験者に相談や質問ができるような内容にします。

この事業を通して、若者議会を直に触れる機会や知る機会をつくり、「若者議会に入りたけれどやっつけていけないか不安だ」と思っている方々の後押しや、若者のまちづくりへの意識づくりにつながると考えています。また、若者同士の交流にもつながります。

2つ目は、アンケートの実施です。若者がまちづくりに積極的に参加する機会や、新たなアイデアが生まれるきっかけとして、市内の若者を対象にアンケートをとります。アンケート内容は、若者議会の認知度や、政策案のアイデアなどです。アンケートによって多くの若者の声を集めることで、若者議会委員の意見だけでなく、ほかの若者の意見を反映させることができ、政策案に厚みができます。また、間接的にでも若者議会との関わりを作

り、若者議会を意識してもらうことができます。そして、若者議会やその活動内容の周知を図ることができると考えられます。

3つ目は、若者議会のマスコット作成です。若者議会のPR活動に活用することで市や若者議会を知るきっかけづくりになると考えます。マスコットは、若者議会の経験者からデザイン案を募集し、その中から選出します。集まったデザイン案をまずマスコット実行委員会が数案選考し、その後若者議会全体に投票という形で選考します。実行委員会は私たち7期のPR委員会メンバーが引き受ける予定です。マスコットに若者議会の良さをギュッと詰め込むことで、子どもから大人までひと目で情報をキャッチすることができます。今までの若者議会のちょっと固いイメージを崩し、市や若者議会に興味をもつきっかけに繋がると考えます。

これらの政策に想定される費用については、報償費4万円、印刷製本費13万2千円、通信運搬費13万2千円、消耗品費2万6千円になります。

○木戸ゆめ委員 最後に、新城市へのメリット、効果についてです。大きく3つあります。

1つ目は、若者議会はもちろん新城市をより深く知ることができ、若者同士の交流を深めることができます。

2つ目は、若者議会への参加を考えている子、参加をしようか悩んでいる子などに興味を持つきっかけや不安を取り除き参加への後押しができます。

3つ目は今後の若者議会の活動への参考資料として活用でき、また若者議会の周知を図ることもできます。

今回の政策案を土台とし、若者の積極的なまちづくりへの参加を促すことで、新城市をより活気のあるまちに作り上げることに繋がります。このことから、若者議会はますます発展していけるのではないのかと思います。

以上でPR委員会の発表を終了します。あ

りがとうございました。

○石内輝議長 ありがとうございます。自席にお戻りください。次に、観光委員会による「日本一あつい冬事業」、「Superバズるバス事業」です。発表者は、島田 悠花（しまだ ゆか）委員、平井 緑空（ひらいりくう）委員、鳥居 愛（とりい あい）委員です。よろしくお願いします。

○平井緑空委員 今から観光委員会の発表を始めます。私達は、観光をテーマに2つの事業を考えました。

1つ目の事業は、「日本一あつい冬事業」です。新城市の観光に関する課題を考える中で、新城市へ訪れる観光客は、ゴールデンウィークから秋にかけて訪れ、冬はあまり訪れないという実情を知りました。新城市には、豊かな森林や川、おいしい空気などの自然や食材のおいしさなど魅力がたくさんあります。冬でもそういった資源を活用し、新たな日帰りや宿泊プランができれば、1年を通して新城市を訪れてくれる方が増えると考えました。

また、若い世代の観光客が少ないため、大学生や若者の意見を聴いてプランを作り、実際に体験してもらうことで、冬の観光コンテンツの開発をすることとしました。

具体的な手法について説明します。近年、アウトドアがブームとなっていますが、中でもたき火やアウトドアサウナの人気が高まっています。しかし、日本では実施出来る場所が少なく、特に山やきれいな川辺などで実施出来れば人気の商品となる可能性があります。そこで、市内で観光事業に携わる事業者、大学生や若者と意見交換しながら、旅行プランを開発してもらうよう事業委託することを提案します。具体的には、真冬の川辺でアウトドアサウナと焚火、日本バーベキュー協会との連携による市内の食材を使ったバーベキューを軸に、体験型のメニューを組み

合わせ旅行プランとしていくことを想定しています。大学生等に意見をもらいプランをつくり、実際に40名程度の大学生にプランを体験してもらいモニタリングします。プラン完成後は、旅行会社等へ資料提供していくことも考えています。

○鳥居愛委員 この事業による新城市へのメリット、効果としては、

1. 冬の閑散期にも観光客が訪れるようになる。
2. これまで決して多くはなかった若い世代の観光客が増加する。
3. 燃料とする薪は、地域の間伐材を利用することから、新城の森が守られる。
4. 旅行商品となれば、経済効果が生まれる。
5. 市内外の大学生が関わることで、関係人口が増え、市の知名度も上がる。です。

この事業で想定する予算としては、旅行プラン開発に関する事業委託料として176万7千円です。またモニタリングイベントへ参加する大学生40名から参加費として計20万円を徴収します。

続いて、Superバズるバス事業です。高速バス路線の走行ルートが変更され、今後、首都圏や関西圏から、バスで新城市へ来る方が増えることが期待されます。そこで、接続するSバス湯谷温泉もつくる新城線の観光客をメインとした利用者に移動を楽しんでもらいたい、また、車内や観光地で、市内の歴史や観光地を紹介することで、再度新城市へ来たくするような仕組みをつくることのできたらいいと考えました。

具体的な手法としまして、1つは「Sバス車内で歴史・観光ガイドを流す！」です。これは、若者が歴史や市内の観光地に関するガイドを録音し、Sバス（湯谷温泉もつくる新城線）車内で流します。ガイドの内容は、観光地や歴史に関する小ネタなどを紹介できればと思います。

○島田悠花委員 2つ目として、「画像やチ

ラシなどで視覚的にPR！」をします。音声ガイドだけでは魅力は伝わりきらないため、画像やチラシによるPRも実施し、Sバス湯谷温泉もつくる新城線沿線の観光地情報が書かれたチラシを作成します。

また、Sバス湯谷温泉もつくる新城線車内に市内の観光地の情報を記載したチラシを作成し、掲示します。さらに、過去の若者議会で提案された「#しんしろイトコ」による観光地写真の投稿促進を強化します。具体的な方法として、観光地のPRを観光客の皆さんにってもらうため、しんしろイトコのハッシュタグを付けてインスタグラムへの投稿を促進するポスターを作成します。チラシやポスターには、観光地情報などにリンクするQRコードも載せていきたいと思います。

この事業による市へのメリット、効果としては、

1. 「バスでの移動が不便」から「バスに乗るから楽しめる」となる。
2. 市内の観光スポットや歴史資源を紹介することで、一箇所だけでなく数カ所訪れてくれたり、再訪も見込むことができる。
3. 若者がガイドすることにより若者議会のPRにつながる。です。

この事業にかかる予算ですが、Sバス湯谷温泉もつくる新城線の音響修繕費用8万8千円、Sバス湯谷温泉もつくる新城線沿線の観光情報チラシ等の印刷費13万3千円、消耗品費3千円です。

以上で、観光委員会の発表を終了します。ご清聴ありがとうございました。

○石内輝議長 ありがとうございます。自席にお戻りください。次に、交流委員会による「ぶかつなぎ事業」です。発表者は、梅田昌茉（うめだ しょうま）委員、夏目涼真（なつめ りょうま）委員、関原絹（せきはら きぬ）委員です。よろしくお願ひします。

○梅田昌菜委員 交流委員会です。よろしく  
お願いします。

私たちは、現在コロナ禍もあり人と人との  
つながりが希薄になっていると感じています。  
学生は地域や他の学校の生徒などといった学  
校外でのつながりが少なく、移住者は元々あ  
る地域コミュニティに入りづらいと感じてい  
る部分が多くあり、そういった様々な視点か  
ら「人と人とが繋がるきっかけ」を作りたい  
と考えるようになりました。また少子高齢化  
に伴い、生徒数が減少したことで中学生の部  
活の選択肢が少なくなり、生徒からはやりた  
いことができないという声も聞いています。  
さらに、市内にはスポーツや文化などの団体  
も人数の減少や高齢化などの理由から受講生  
や仲間を募集している例も多く見られていま  
す。かつ生徒側も団体を知る機会が少なく、  
団体を知っていたとしても参加の声を上げる  
ハードルが高いのではないかと感じています。

私たちは、これらの現状や思いを形にする  
ために、地域で活動する団体と市民を幅広く  
趣味という枠組みで、市民同士が交流し、繋  
がることのできる仕組みを作りたいと考えま  
した。

この政策で、中学生をはじめとする市民が、  
市内で活動する団体をわかりやすく知り、参  
加していくことで人と人との交流し、つなが  
りが生まれ、市に愛着を持つ人が増えてほし  
いと感じています。そして将来的には3つの  
ことが叶うまちを目指します。

1つ目は「市民満足度の向上！」やりたい  
ことができるようになり市民全体の満足度を  
向上することができます。

2つ目は、「活気を取り戻す！」ここでい  
う活気とは、商店街が賑わっているなどの商  
業発展の面だけではなく、市民がお互いに交  
流し、コミュニティが築かれていることをい  
います。

3つ目は、「世代のリレー！」ここでいう  
世代のリレーとは、上の世代から文化を伝承

させることだけではなく、より新城市が好き  
で愛着を持ち、新城市について考える若者が  
増えていくことも含みます。

さらにはこのやりたいことができるという  
環境が、若者総合政策及び若者が活躍できる  
まちの実現にも繋がっていくと確信していま  
す。

以上の思いから、私たちは中学生をメイン  
とした全市民を対象に政策を考えました。

○関原絹委員 政策内容としては、地域で活  
動するスポーツ団体や文化団体を、趣味とい  
う幅広い枠組みで捉え、わかりやすく一つに  
まとめた趣味活マッチングサイトを作成しま  
す。このサイトは新たに作成するのではなく、  
若者議会ホームページに追加するかたちで作  
成します。

まず掲載する団体を募集します。募集方法  
としては市内公共施設を中心にポスターの掲  
示、各団体へチラシの配布を行い、記載され  
ているQRコードやアドレスを通して連絡し  
てもらいます。そして募集期間終了後、趣味  
活サイトの作成に取り掛かります。続いて趣  
味活サイトの周知を行います。サイト完成後、  
完成を周知するために、チラシや広報ほのか  
などの媒体を活用し、広く市民へサイトのP  
Rを行います。そしてメインターゲットであ  
る中学生に対しては、サイトに掲載された団  
体を載せたチラシを作成し、学校で配布しま  
す。チラシを配布することで、必ず生徒の目  
に留まり、その場で生徒同士の会話が生まれ、  
より効果的な周知になると考えます。

最後に市民と団体のマッチング方法につい  
て説明します。団体はカテゴリーや地域ごと  
にサイト内で検索できるようにし、興味をも  
った場合には、直接その団体と連絡をとって  
もらう仕組みにします。全体のスケジュール  
案としては別添のとおりですので、ご確認く  
ださい。

○夏目涼真委員 この政策のメリットとして  
は、学校外でのつながりができ、また地域の

活動団体とも繋がるができることです。また、同じ思いで集まった人たちと一緒に成し遂げることで絆やつながりが生まれ、市への愛着が深まり、市民の満足度向上につながると考えます。そして交流を通して顔馴染みや友人が増えることで、住み心地の良さや市への愛着心につながり、新都市に住み続けたいと思ってくれる人が増え、市外に行ってしまった人が戻ってくるきっかけにも繋げられます。さらには部活動の教え手が学校から地域に移っていくことで、学校の先生の負担軽減に繋がり、より生徒1人1人に集中して向き合うことができる、などがメリットと考えています。

最後に予算についてです。想定される費用は、趣味活サイト作成費用に121万円。チラシ作成、郵送費に25万9千円となっております。

以上です。ありがとうございました。

○石内輝議長 ありがとうございました。自席にお戻りください。以上で、若者議会から市長へ4つの事業についての報告といたします。

### 3. 市議会議員挨拶

○石内輝議長 それでは、続いてお忙しい中ご出席いただきました、長田市議会議員様からごあいさつをいただきたいと思います。

○長田共永市議会議員 少し肩の力を抜こうか。本日の報告会に呼んでいただき感謝の方申し上げます。そして、この報告会に、実現までに、君たちがかけた時間、そして多くの議論、これは決して間違っていないし、多くの財産になっているかと思います。そんな思いを胸に、まちづくりにおいて希望や夢を持つことは、市民誰もが持つ権利であり、このまちづくりの思いは、どの方向でもすべて正しいと思っています。

まちづくりにおいて、我々の世代と君たちの世代に1つ大きな違いがあります。それはまちづくりに実現するために、かける時間です。我々の世代は、夢を君たちの世代に繋ぐ、そんな世代かと思います。そんな中、君たちはその夢を実現し仲間を増やしていくというのが、君たちの世代の役割だと自身は考えています。だからこそ、君たちはこのまちの宝であって、そして未来であると信じています。

事業において、「若者議会を増やそう」とこのような事業提案がありました。このような思いを、多くの君たちの世代に広げていただきたいと思います。

個々の事業についての論評は、本日は避けませんが、2月には市議会議員との意見交換会が開催される予定になっております。そのような中、君たちの事業が予算提案されるということは市民の税金を使うということです。市議会議員は、当然そのとき辛辣な意見や厳しい意見を言うかと思います。それは、君達を利用するのではなく、君たちをまちづくりの主役として認めているからであって、それが議員としての礼儀だということを知ってほしいと思います。

常々自身、若者議会に対して、もっとこうしたらいいんじゃないかという思いが1つあります。市民の権利に議会への請願、陳情ということがあります。請願、陳情ということを知っている君たちはわからないかもしれないが、行政職員、担当職員と相談して、近い将来には君たちの提案を請願陳情という形で、堂々と議会に提案していただければ、若者議会はより高みにいけるかと思います。

堅い話はこれぐらいにさせていただきますが、これは議長としてではなく、君たちと同世代の2人の娘を持つ親として、アドバイスしていただきたいことがあります。特に、娘から、SNSやLINEでブロックされることがありますが、そうした中、君たちにアドバイスをいただければ幸いです。それぐらい

議員というのは、君たちのような世代から声をかけていただけるだけで嬉しいし、それで君たちの思いを実現したいと思っております。

最後にはなりますが、改めて2月9日には皆さん覚悟していなさい、そして堂々と君たちの意見を言うていただければ、我々もきちんと答えようと思えます。

感謝の言葉を述べ、議長としての挨拶いたします。本日はありがとうございます。

○石内輝議長 ありがとうございます。

#### 4. 市長あいさつ

○石内輝議長 最後に、下江市長からごあいさつをいただきたいと思えます。

○下江洋行市長 新城市長の下江洋行です。

先日11月22日に石内議長から4つの事業が記載されました令和4年度新城市若者予算事業に関する答申書を受け取りました。5月の所信表明から始まりました若者議会でのこれまでのご苦勞やご奮闘、また皆様の思いが詰まった答申として、しっかりと受けとめさせていただきます。

また、たった今、皆様から4つの事業について説明をしていただきました。

まずPR委員会による「若者議会に見て触れて〜キミも主役になっちゃお〜事業」。こちらは若者議会をより多くの若者に知ってもらうことで、市政に興味を持ち、若者議会への参加者を増やすことや、より若者の意見が反映された政策を目指したい、そして若者が活躍できるまちにしたいという思いを。

そして次に、観光委員会による「日本一あつい冬事業」では、冬に訪れる観光客、特に若者の観光客が少ないという新城市の現状を課題と捉え、大学生や若者と連携し、今流行であるアウトドアを活用して解決し、1年を通して新城市に訪れる観光客を増やしたいという皆様の思いを。

また「Superバズるバス事業」では、高速バスの運行ルート変更に伴うバスによる本市への来訪を見込み、新城市の強みである歴史や観光地などの魅力ある資源を紹介し、楽しんでもらいたい、そして何度も新城市へ足を運んでももらいたいという思いを。

最後の交流委員会の「ぶかつなぎ事業」では、人と人との繋がり希薄化や部活動の減少といったコロナ禍や少子高齢化に伴って起きている障害を、今ある新城市の資源を活かして解決したい。繋がりをつくり、新城市を活気溢れるまちにしたいという思いをそれぞれ確認させていただきました。

いずれの事業も、新城市の今の現状をしっかりと把握され、どうしたら解決し新城市を明るい未来にできるのかが深く考えられ、またその中には若者達の熱い思いも反映されており、非常に練り上げられた政策だと感じました。

今年もコロナ禍での活動ということもあり、会議の約半分がウェブ会議など、直接皆様が合って話し合うことができない状況であったと伺っております。そのような状況の中で政策をまとめあげ、先日の答申を迎えられましたことに感謝をしていますし、若者の力を実感しております。

本日報告していただきました4つの提案は、令和4年度の予算編成事業の中に組み込ませていただきます。今後、新城市全体の予算を調整し、来年の3月には市議会に予算案として提案いたします。そしてその予算は議会で審議され、議決をいただければ、来年度から事業を実施していくという流れになっています。

結びになりますが、本日この日を迎えるまでに多くの方が支えてくださったと思えます。メンターの方々、市外委員の皆さん、そして何よりも温かく見守り、応援をしていただいたご家族、学校の先生方、会社の上司の方、仲間たちへの感謝を忘れずに、これからも活

動に力を入れて行ってほしいと思っています。

本日は本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

○石内輝議長 ありがとうございます。本日、このように全委員会の政策の報告が無事に行われて安心しています。今後はどの委員会も実行に向けて、より内容を詰めていくことになると思います。委員、職員で第7期若者議会一丸となって、よりよい政策を市民の方々に届けられるよう頑張っていきましょう。

これをもちまして、第10回新城市若者議会市長報告を閉会させていただきます。

閉 会 午後8時15分